

データベースを巡る国内の動きと 本学図書館

奥 正敬

近年、本学図書館は資料検索機能のさらなる向上を目指して、本学の教育・研究分野の所蔵資料に関する主題別書誌データベースの作成とその充実を図ってきました。

一方、国立国会図書館や国立情報学研究所などでは、このようにして作られる全国の大学や研究機関の様々な形の学術情報データベースに、誰もが簡単にアクセスできるシステムの開発を進めています。

本学図書館が主題別書誌データベースを作る理由は、図書館が利用者から「このような資料はありませんか」という要求の声を待つ能動的な姿勢から、「このような資料がありますよ」と常に利用を呼びかける積極的な姿勢に変化しなければならないことを強く認識しているからであります。

こうした考え方に基づいて、本学図書館では所蔵資料約50万冊全ての書誌データの収録を目指す「総目録データベース」の他、「世界の言語と国際地域研究」や「世界を感動させた作家たち」、「データベース・ノーベル文学賞」などを始めとして、26件にのぼるテーマ毎の主題別書誌データベースを作り、ホームページから学外にも公開しています。また、これを本学図書館からの情報発信と位置付け、学生・教職員の皆さんの自宅などからの利用だけに留まらず、他大学や学外の研究者、そして一般市民の方々にも蔵書構成の特徴を確認していただくなど、多くの効果をあげてきました。

学術資源となるデータベースが全国の大学や研究機関によって作られ、発信が盛んになるにつれ

て、図書館界やその関係機関ではウェブ上の諸データベースへのリンクシステムが公開されるようになりました。特に、国民共有の情報資源の構築を目指している国立国会図書館では、ゲートウェイ・サービスとして「データベース・ナビゲーション・サービス」を公開し、本学図書館からも主題別書誌データベース19件が登録されています。また、大学共同利用機関である国立情報学研究所では、大学から公開される研究成果等の情報発信支援として「大学Webサイト資源検索」（大学情報メタデータ・ポータル試験提供版）のシステムを作っており、ここにも同じく本学図書館から14件の主題別書誌データベースが収録されています。この両機関に本学図書館が提供している自館作成データベースの数は、未だ全国の私立大学図書館による作成数の少ない中であって、極めて高い数値であるといえます。

このように、国立国会図書館と国立情報学研究所は設立目的と業務の性格は異なるものの、データベースの運用に取り組む姿勢には、ウェブ上のデータベースを重要な学術情報資源と捉えた高い共通認識があり、今では各大学の枠を越えたテーマ別情報探索には欠かすことのできない重要なツールとなっています。

本学図書館は、今後もこうした主題別書誌情報データベースをより多く作成することで、学内での資料検索方法の選択肢が大きく広がっていくものと思っています。同時に、前述の二つの機関が作るリンク機能を通じて、全国の大学や研究機関が作成したデータベースの活用が容易に行え、利用者に図書館とその情報資源提供システムを、より身近に感じていただけるようになるものと考えています。

おく まさよし

（司書・図書館事務長兼管理運営課長）